

中国香港選手に関する決定 (2008.3.19 国際卓球連盟発表)

北京オリンピックの世界ランキングによる直接出場資格

ITTFは国内オリンピック委員会(NOC)あたりの最大2名として2008年1月の世界ランキングから男子20名と女子20名の選手を直接出場資格選手に選定した。

これまで香港ならびに選手から提供されたパスポートと身分証明書類を考慮に入れた結果、ITTFは以下の決定をせざるを得ないとの結論に達した。

ITTF決定事項

1. 2008年1月の時点で出場資格を満たしていない状態だったので、選手の直接出場資格者リストから林菱(HKG)と帖雅娜(HKG)を除外する。
2. 1月の世界ランキングリストから資格が発生すると考えられる次の選手は、張瑞(HKG)と柳絮飛(HKG)である。しかしながら、張瑞は有効なパスポートを持っていないため、正しい出場資格を有している柳絮飛(HKG)だけを暫定的に直接出場者資格者リストに入れる。
3. 世界ランキングから直接資格を得る次の選手として倪夏蓮(ルクセンブルク)が資格を得る。

今後のIOCの決定による展開

a) IOCが出場資格を認めた場合:

国際オリンピック委員会(IOC)が3名の女子選手、中国香港の林菱、帖雅娜および張瑞の出場資格を最終的に認める場合、林菱、帖雅娜の2選手は世界最終予選会(5月8~11日、於:ハンガリー)に参加し資格を得る機会がある。張瑞(HKG)は3月9日にアジア大陸予選会の資格獲得選手の一人として資格を得ており、大陸枠の出場資格が有効となる。

この場合、中国香港卓球協会は、20名の世界ランキングによる直接出場資格者リストから柳絮飛を辞退するようITTFに依頼することができ、そしてITTFは1月の世界ランキングリストからの次点の選手をリストから資格を有する20番目の選手として確定させる。

b) IOCが出場資格を認めない場合:

IOCが林菱、帖雅娜および張瑞の出場資格を認めない場合、香港の卓球協会とオリンピック委員会が柳絮飛の出場資格と有用性を確認すれば、柳絮飛の世界ランキングによる直接出場資格獲得が決定する。

中国香港卓球協会は依然として出場資格を持つ2名の選手を世界最終予選に出場させることができる。また、この場合アジア大陸予選会の次点の選手であるチャイニーズタイペイの黄怡樺が大陸枠の資格を獲得することとなる。

以上、国際卓球連盟ホームページより

情報ソース: 国際卓球連盟 <http://www.ittf.com/>

記事原文: http://www.ittf.com/_front_page/ittf_full_story1.asp?ID=15020&Category=General&Competition_ID=&